

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2671200055		
法人名	医療法人 栄仁会		
事業所名	グループホーム やまぶきの郷 (さくらユニット)		
所在地	〒611-0013 宇治市菟道段の上20-1		
自己評価作成日	令和2年9月30日	評価結果市町村受理日	令和2年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2691200055-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2691200055-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅津町83番地1 ひと・まち交流館京都1階		
訪問調査日	令和2年11月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様の日頃の様子を定期発行している新聞だけではなく、廊下に設置している掲示板にも写真を貼ること</li> <li>で、より一層家族に方にもやまぶきの郷での日常を感じて頂けるようにしている</li> <li>・利用者様と一緒にベランダのプランターにて野菜(ゴーヤ、トマト、唐辛子等)を育て、収穫、それらを使用した料理を楽しんだ</li> <li>・接遇委員を中心に、2ヶ月に1回内部研修を行い職員全体の接遇意識の向上に努めている</li> <li>・地域の中に根差す為、地域との交流の場があれば積極的に参加し、関わりを持つようにしている(地域の祭り、文化祭への参加等)</li> <li>・消防訓練の際には、地域の消防署や消防団の指導を受け、連携する事で防災意識を持ち続ける様心がけている</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所理念「一人ひとりがその人らしく地域に根差したサービス提供を」の実現に向け着々と歩を進めている中でコロナ禍に見舞われた。困惑と戸惑いの中にも新たな打開策を見出し進もうとしている。職員は入居者の夢をかなえる施設にしようと真剣に取り組み、入居者と喜びを共にすることで仕事に達成感を見出している。コロナで面会や外出に制限がかかる中、従来の行事に代わるイベントとして事業所内にトウモロコシ、綿菓子等の屋台を設けたり、花火を打ち上げたり、菜園を楽しんだり事業所内で出来ることの充実を図っている。正職・パート職員を問わず担当制により入居者への深い理解のもとで一人ひとりを大切に丁寧なケアを実践している。職員の福利厚生も整備され、残業はなく、休みも取り易く、外部研修への参加奨励など人材育成機能も充実し、法人全体で職員のレベルアップを支援している。また、24時間対応してくれる協力医や訪問看護師などの親身な助力により看取りも行い、家族・関係者に強い安心を届けている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示し、スタッフ一人一人がその理念を心に置き、利用者様に接しその人らしいケアが出来る様、常に努力している	「一人ひとりがその人らしく地域に根ざしたサービス提供を」の理念を各ユニット玄関に掲げるとともに、ホームのパンフレット、広報誌「やまぶき新聞」にも記載している。利用者の願いを叶え地域や馴染みの関係を活かすよう日々支援にあたってきたが、コロナウイルスの影響で停滞気味であり、理念の実現に向け現状で出来ることを様々模索している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の交流(花傘・納涼祭等)に参加している。また、やまぶき祭りや消防訓練に地域の方にも参加して頂き交流を持っている 令和2年4月以降は地域との交流は中止している(コロナウイルス感染予防の為)	コロナの影響で外出しにくい環境のなかで従来のように交流の出来ないことも多い。この状況を地域が気にかけてくれ、民生委員の紹介で京田辺のコスモス畑の花摘みに出かけることがあった。常に感染情報に気を付けながらも地域の方からのウエスや食器の寄付は続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学校の職場体験を受け入れ、認知症の介護について学んでもらっている 令和2年4月以降は地域との交流は中止している(コロナウイルス感染予防の為)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議録を申し送りノートに綴じスタッフ一人一人が目を通し、必要に応じて業務に落とし込んでいる 令和2年4月以降は関係各所に資料を郵送しご意見を伺う形をとっている(コロナウイルス感染予防の為)	市職員や包括支援センター職員、家族代表等と運営推進会議を2か月に1度開催し、行事、ヒヤリハット、入所者構成比や身体拘束廃止委員会等の報告をしていた。自治会長からも地域行事の案内を貰い、参加するなど良好な関係を築いていたが、コロナウイルス対応で現在は書面での情報交換となっている。	コロナウイルスの影響で書面での会議となり、市と包括支援センターからのコメント以外の家族代表や地域の自治会役職者や知見を有する関係者方などからの多方面の意見が収集できていません。幅広く関係者からの情報収集など一層の工夫が望まれます。

京都府 グループホーム やまぶきの郷（さくらユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員を受け入れ、運営推進会議に市役所の方の参加を呼びかけている 令和2年4月以降は介護相談員の方とは手紙にて交流を行っている(コロナウイルス感染予防の為)	市主催の認知症対応型共同生活介護事業所意見交換会に参加していたが、コロナ禍で中断している。高齢生きがい課と包括支援センター同席の介護支援専門員意見交換会に参加し、行政と共にコロナや他の諸課題を協議・検討する機会を持つことが出来た。運営推進会議前の意見聴取と書面照会後の会議録を市に届けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個人の活動の自由を尊重し、夜間・早朝以外は玄関を開錠している。身体拘束の研修を毎年施設内で行い、拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束防止等適正化指針」を定め、言葉の拘束を含め入居者本位の支援をしている。もし無断外出などが起こってもすぐ発見できるようマニュアルを整えリスク管理も並行して行っている。2か月に1度の運営推進会議に身体拘束禁止について検討結果を報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的(2か月に1回運営推進会議と年に一回の全体会議)に研修を行い、施設全体で虐待ゼロを徹底している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行い、権利擁護についての理解を深めている。現在さくらユニットは4名が成年後見制度を利用されている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、また必要に応じて個別に十分な説明を行い、理解納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年アウトカム評価や家族会を実施している。アウトカム評価で指摘を頂いた項目については、回答・改善を書面にし家族に配布している	年2回家族会を開催し、日頃の活動報告や、職員が看取りなどの話をして家族と意見交換していたがコロナ禍で中断している。ケアマネジャーが月一度は家族に電話で近況報告と意向確認をしている。家族アンケートではリビングのエアコンの風向やムカデ対策などへの要望があり、対処し家族にもその結果を報告されている。	コロナ禍での歩行状態低下への家族の不安がアンケートから散見されます。運動不足による心身機能の低下を防止する方策を考慮される様期待します。

京都府 グループホーム やまぶきの郷（さくらユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議・全体会議・個別面談等で提案できる機会を設け、反映させている	職員には年3回管理者面談があり、目標達成度や個人の希望などを話す機会が設けられている。週1回のユニット会議でも意見を述べる機会がある。9月から人員体制が変わり各職員の業務量が増えたので夕刻の副食のみチルド食にするなど職員の意見を反映させた業務見直しも行っている。休みも取り易く働きやすいとの意見を職員ヒアリングから聞き取った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や全体会議等で勤務の現状・改善点等を伝える機会がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員が希望に添った又は力量に合った研修を受けれるようになっている 令和2年度については外部研修は中止している (コロナウイルス感染予防の為)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇治市の認知症対応型共同生活介護事業所 意見交換会に参加し、事例検討を通して他施設の取り組みを学んでいる		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式シートを用いることで本人もしくは家族、後見人のニーズや不安を知ることができ、一人一人に合ったサービスの提供が出来る		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式シートを用いることで家族の思いを知ることができ、サービスに繋がると共に家族もケアの一員であるという意識を持って頂いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望や不安に耳を傾け、その時のニーズにより、同施設内にある小規模多機能居宅介護、または居宅介護支援、他施設の利用を提案している		

京都府 グループホーム やまぶきの郷 (さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様との日々の関わりの中で、出来そうな事を見極め、買い物と一緒にいたり、掃除やゴミ集め、広告を使ったゴミ箱作り、園芸などに協力して頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会・運営推進会議・行事等への参加の機会を設けたり、居室の大掃除や衣替え、受診の付き添いも協力して頂いている 令和2年4月以降は面会の制限を行っている(コロナウイルス感染予防の為)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院に家族様と定期的に行かれたり、家族や親族との外食や法要などの機会には外出されている。また入所の際にはこれまで使用されていた家具を持って来て頂いたり、これまでの生活が切れることが無いようにしている	これまで出来ていた観劇・映画、敬老会、冠婚葬祭への出席などがコロナウイルスの影響で出来なくなり、家族とも窓越しの面会に留まっている。市の補助金を利用したオンライン面会を法人として検討中である。桜・紅葉の車中ドライブ等により季節感を感じてもらっている。また、土いじりの好きな方はベランダや中庭の花、ゴーヤ、ミニトマト、マスカット栽培や収穫を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	くつろぎや食事の時間を心地良く過ごして頂く為に居場所やテーブル席の配置を工夫している。また他ユニットでも新たに馴染みになられた方とは交流する機会を作っている 令和2年4月以降は面会の同施設内でも移動の制限を行っている(コロナウイルス感染予防の為)		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の行き先への相談に応じたり、経過をフォローする事で再入所頂く事もあった		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で気づいた希望や思い、心身の変化は記録に残しチームで共有している。特に自身の思いを発露出来ない方に関しては、これまでの生活歴等からも本人のニーズを見つけ出すようにしている	センター方式のアセスメント表に詳しく入居者情報を書き込み赤、青ペンで新しい情報を追記し、定期的に更新している。焦点情報(D-4)のシートには職員が聞き取った本人の言葉が数多く記録され、具体的な意向を介護計画に反映させている。担当制により細やかな入居者の現状把握が行われている。	

京都府 グループホーム やまぶきの郷（さくらユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時家族の方に、これまでの生活歴や趣味等をセンター方式シートに記入して頂き、面会時に新たな情報を得た場合も記録に残している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、各個人の心身の状況を常に意識し、担当者が中心となってサポートしている。また、状態に応じて随時看護師・主治医と連携を取り対応を図っている。有する力に関してはシートの見直しを定期的に行ない、スタッフ全員で現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題が出た時は、申し送りやスタッフ会議でその都度分析し、本人と個別に話をしたり、家族等必要な関係者の意見も取り入れて現状に即したケアが出来るよう努めている	週1度のユニット会議や各種記録、主治医・看護師からの情報と本人・家族の意向などを総合し介護計画を策定している。6か月に1度ケアプランを更新し家族等に説明し同意を得ている。家族等には3か月ごとのモニタリング結果も送付し情報共有している。アセスメントの緻密さにより本人本位の丁寧な介護計画が策定されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録にはセンター方式シートを活用し、申し送りやスタッフ会議等でその都度分析することで、実践や介護計画の見直しに繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模・グループホームのユニット間で行事やレクリエーション等を通してお互い交流を持っている。定期的な家族へかけられる電話の取次ぎや嗜好品の購入、希望の外出先への付き添い等その時々ニーズに対応している 令和2年4月以降は施設内の移動、外出は自粛を行っている(コロナウイルス感染予防の為)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(納涼祭・花傘巡行・文化祭)には利用者様にも参加して頂いている。消防訓練では消防署や消防団の指導を受け参加して頂いている 令和2年4月以降は地域との交流は自粛している(コロナウイルス感染予防の為)		

京都府 グループホーム やまぶきの郷（さくらユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	藤井おうばく駅前内科クリニックと提携し、月1～2回の訪問診察を受けている。より専門性の高い医療が必要な時や本人、家族が希望される場合は、他病院への受診を行っている	駅前のクリニックの医師による月2回の往診や24時間のサポート体制がある。クリニック看護師、訪問看護師、法人母体の病院等により幾重もの支援体制と選択肢がある。骨折などで緊急性の高い場合や、家族が他府県在住の場合は職員が全面的に通院に付き添う。歯科はコロナウイルスの影響で緊急時のみの往診依頼にとどめている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時にはかかりつけのクリニックに連絡を取り、看護師に訪問頂いたり、場合によっては主治医に往診に来て頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様や家族には予め希望する病院を聞き入院等の際スムーズに移行出来るようにしている。入院後も面会に伺い、担当看護師と情報交換を行っている (コロナ禍においては各病院の指針の元面会等を行っている)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルの研修を行い、グループホームにおいて看取りについてスタッフ全員で考えている。また家族に対しては書面や家族会等で終末期の対応や思いを伺い、共有している	「病状等が重度化した場合の指針」及び「看取り介護に関する姿勢」を重要事項説明書にも記載し利用開始時に本人・家族等に説明して同意を得ている。また実際の看取りに際しては「看取り介護指針」に沿って何度か意思確認を重ね、途中で本人や家族の気持ちが変化した場合にも意向に沿うようにしている。昨年度は2名の看取りを行っている。	
34		利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置しており、設置場所はスタッフ全員把握している。また消防署よりAEDの研修を受けており研修内容もスタッフ全員に伝達している		

京都府 グループホーム やまぶきの郷（さくらユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回防災訓練(防火・避難訓練)を行い、地域の消防団の方にも参加して頂き意識を高めるよう努めている。また災害用備蓄品の点検を行い、必要に応じ補充・入れ替えを行っている 令和2年3月以降は、消防署、消防団の参加を控えた訓練を行っている	例年夜間想定 of 防火訓練を消防署や消防団、地域と連携を取り実施していたが、今年度はコロナウイルスの影響で職員のみの実施となった。夜間の被災を想定した伝達訓練では職員の夜間協力体制を把握し今後の対策を検討している。水害の避難計画を策定中である。3日分のおかゆ・水などの食料、軍手・ラジオ・リネンや懐中電灯などを備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員を中心に2ヶ月に1回研修を行っており、プライバシーの保護・コンプライアンスの研修も年に1度行い、スタッフの意識を高めるよう努めている	2か月に1回の研修では、接遇委員を中心に、無意識にプライバシーの侵害をしていないかなど15項目のチェックシートでふり返り、尊厳に配慮した支援をしている。食事エプロンも拘束と捉え、家族の希望による場合を除き実施していない。慣れあった関係性を解消するためにユニット間の職員入れ替えを実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が何でも言いやすい雰囲気作りに努めている。また、好みに応じた行事などに声掛けをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の毎日の暮らしの中での家事・興味を大切にして、グループホームでもその人に合ったペースに合わせられるよう心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に買い物に行き、自分の好みの服を選んで頂いている。また自宅で過ごされていた時からお化粧をされていた方には、やまぶきの郷でも毎日お化粧のお手伝いをしている コロナ禍においては買い物は職員が代行にて実施している		



京都府 グループホーム やまぶきの郷（さくらユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物に行く際には、食べたい物を聞き出し、希望されるものを作ったり、可能な方には下膳・食事の支度、テーブル拭きなどをお手伝い頂いている 食事形態が低下した方についても、常に食事の様子を観察し、定期的にもとの状態に戻せるかの検討を行っている	季節の食材を取り入れ入居者と共に献立を考えている。買い物に行けないので宅配で食材を購入している。特別メニューでご当地グルメを作ることもある。みんなで育てたゴーヤ・パプリカ・枝豆・マスカットなども食卓に興を添えている。秋祭りをリビングで行い、屋台風コーナーでたこ焼きピラフや焼きとうもろこし、綿菓子を楽しんだ。ケーキ作りの得意な職員がケーキを作り、入居者の誕生日を皆で祝っている。味見や食卓の準備・片付けなどできる人は職員と共にしている。食欲低下の入居者には食事形態と見た目にも工夫し食欲が湧くようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜類・きのこ類を多く使用している。汁物は1日1回にして塩分にも気を付けている。水分も水分補給の時間を作り、こまめに声かけし水分補給に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の口腔ケアの利用やマウスウォッシュ・やわらかい歯ブラシ・義歯洗浄剤等を使用し、清潔保持に努めている 令和2年4月以降は地域と緊急時以外の往診は中止している(コロナウイルス感染予防の為)		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	センター方式シートを活用し排泄パターンを掴めるように努めている。立位が困難な方は定期的に誘導し、場合によっては2人介助を行いトイレでの排泄を促している	健康管理チェックシートに記録し排泄パターンを把握し排泄のサインを見逃がさないようにしている。立位の困難な利用者には時間を決め声をかけている。ほぼ自立の方が3名、他は何らかの介助を要し、二人介助の必要な方もいるが、極力日中はトイレでの排泄をするよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多い物を食べて頂くよう努め、オリゴ糖や牛乳を利用し排便を促すようにしている。また排便の状態をクリニックや薬局と共有し、問題がある時には相談を行っている		

京都府 グループホーム やまぶきの郷（さくらユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否や外出等がある時は本人の希望や体調に合わせて柔軟な対応をするようにしている。またリフト浴を活用し、スタッフ2人体制でゆっくり安心して入って頂いている	1日2～3人が入浴している。本人の状態を見ながら個浴かりフト浴か本人に合った方法を考えて支援している。毎回湯を入れ替え、入浴を楽しめるよう、石鹸や入浴剤は本人の好みに合わせている。しょうぶ湯や柚子湯を楽しむこともある。入浴を流す方には言葉かけの工夫や日を変更して気持ちよく入ってもらえるようにしている。同性介助を基本としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室だけではなく、リビングのソファ等それぞれが好きな時に居心地の良い場所で休息して頂けるよう支援している。また、座位に不安がある方であってもリクライニング式の車椅子を使用し、居室にこもりきりにならないようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各受け持ちは薬の知識を持ち主治医や薬局との連携を取っている。また疑問に思った事は往診時に主治医や薬剤師に質問するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品（お酒・コーヒー・ジュース・漬物等）を本人の希望でお出ししている。また生き物のエサやり・洗濯物たたみ・家庭菜園のお世話等個々の楽しみや力を活かした手伝いをしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに行くのが好きな方には天気の良い日にお誘いしたり、自分の家が気になる方には一緒に様子を見に行ったりしている。他にもお店と一緒にいき、服や好きなサイダーやお菓子を購入したり、ペットカフェにも行っている 令和2年4月以降は外出は緊急時以外自粛している（コロナウイルス感染予防の為）	外出しにくい状況のなかでも安全を考えながら車中からの花見や紫陽花ドライブ、コスモス畑の花摘みに出かけたりしている。事業所内で筋力低下予防のため歩いたり体操をするとともに中庭やベランダ、玄関先で外気浴を楽しんでいる。	

京都府 グループホーム やまぶきの郷（さくらユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物を希望される際は、お預かりしているおこずかいを金庫からご用意し、スタッフと出かけたり、代わりに買い物に行ったりしている また希望される方には、家族と相談を行い御本人にも財布を持って頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方はスタッフが電話をし、利用者様と変わり話して頂いている。手紙の希望は今は無いが希望があれば支援していく 個人の携帯電を所持し、定期的に電話をされている方もおられる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁や窓には季節感のある飾りやレクリエーションの写真を掲載している。また、ベランダにトマトやゴーヤ唐辛子等を植え利用者様と収穫を楽しんだ。	利用者が集うリビングは、オレンジがかった電球色のペンダントライトやダウンライトが点き、落ち着いた環境である。和室や廊下にソファやコンパクトな応接セットが置かれ好みの場所でくつろげるように工夫されている。壁には季節の飾りや入居者の写真が貼ってある。オゾン発生器を市の助成で11月に設置した。また、加湿器の設置や定期的な換気も行っている。フローアの掃除は現在はボランティアは断り職員がしているが、清潔に保たれている。金魚の餌やりを楽しむ入居者の姿がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでお笑いや音楽のテレビ等を楽しまれたり、ユニットで飼っている金魚の餌やりをされるなど、思い思いに過ごして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際にはご自宅で使用されていた家具や家族の写真、テレビ等を持って来て頂いている。また、ご本人の身体状態の変化に合わせて随時必要な物を家族と相談して購入している	馴染みのある物や家具を持ってきているが、入居当初はそれでも落ち着かず職員と一緒にさらに馴染みの物を取りに行ったりすることもある。ベッドやタンスなどの家具の配置や壁の飾りには入居者の個性が窺える。職員に家具などの配置換えを相談する方もいる。窓には周囲の自然の樹々が映り、採光もよく開放感がある。自室の清掃は職員と一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止の為手すりを持って歩行して頂いている。洗濯物たたみや食器の下膳、掃除等負担にならないようなお手伝いをして頂いている		